



宇部環境国際協力協会の事務局長に就任して



宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）事務局長 伊原大輔

皆様、こんにちは。私は昨年4月から宇部環境国際協力協会の活動に携わり、環境問題に取り組む多くの方々と交流する機会に恵まれています。その中で、宇部市の環境保全対策や技術移転の取り組みが、国内外の多くの人々に大変参考になっていることを実感しました。また、地元ボランティアの方々や海外研修員の熱意や情熱に触れながら、私自身も環境問題に向き合い、学ぶことが多くありました。

本協会の松田博理事長のもと、環境先進都市として国際的視野に立ち、地球環境の保全活動に積極的に貢献していくことを目的とした協会の理念に共感して、事務局長としての職務に就きました。宇部市や山口大学、及びJICA(*1)やCLAIR(*2)などからご支援をいただき、「宇部方式」による環境保全施策や市内の企業・大学が有する先進的な環境関連技術を途上国に移転するため、海外から研修員を受け入れ或いは海外へ専門家を派遣する、こうした支援活動のお手伝いをしています。また、宇部市民ボランティアの方々による海外

研修員との交流や支援活動の機会をご用意します。市民の皆様には環境意識啓発活動として環境国際セミナーと環境保全技術講座を企画開催しています。

この1年間に実施した国際協力活動は環境ウエビナー、CLAIRモデル事業研修、JICA青年研修であり、相手国はいずれもインドネシアでした。これらの活動を通じて、私は研修参加者の環境に対する認識と関心の高さに感動を覚えるとともに、宇部市の環境行政やノウハウ、市民による環境活動が相手国との交流や協役に役立つことを理解しました。これらの活動を継続し、さらに国際的パートナーシップ構築へ発展させていくことが協会の使命であると考えています。

今後とも、当協会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

(*1)独立行政法人 国際協力機構

(*2)一般財団法人自治体国際化協会



「バイオマス産業都市さが」 環境バスツアー開催！

日時：2024年3月15日(金) AM7:30 - PM7:30

参加費：お一人様大人2,000円、小学生以下1,000円

このツアーは今年度の宇部環境国際協力協会(宇部アイカ)「環境保全技術講座」と、うべ環境コミュニティー「第3回環境サロン」との連携事業として実施するものです。

バイオマス利用先進都市佐賀市の下水汚泥コンポスト、ごみ焼却時に発生するCO2の藻類栽培への利用等参考になります。昼休みは「東よか干潟ビジターセンター」ですが、各自弁当持参ください。



佐賀市清掃工場
二酸化炭素分離回収設備



申し込み締め切りは3月8日(金)です。氏名・住所・所属・連絡先の電話番号等、出発のバス停、宇部中央バス停(宇部市役所方面の乗り場/7:30)または市役所前バス停(旧庁舎前/7:35)の別を、宇部アイカ(TEL/FAX 0836-36-3199またはinfo@ieca.biz)、もしくはまちなか環境学習館(TEL/FAX 0836-39-8110またはubekankyocom@gmail.com)までお知らせください。

追加募集です！



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日～1月3日)



HomePage



facebook



x



NPO法人うべ環境コミュニティー

カーボンニュートラル社会を実現する水素・アンモニア

山口大学大学院創成科学研究科 准教授 白石 僚也

持続可能な開発目標(SDGs)にも挙げられているように、温暖化・気候変動に具体的な対策を講じることは人類にとって最重要課題の一つです。温暖化の原因は、人類の活動によって排出される温室効果ガス(主としてCO2)です。この温室効果ガスの排出をゼロにできればいいのですが、それは現実的ではないので『排出を減らしつつ、どうしても出てしまう分は回収して、正味排出量をゼロにする』という考え方を『カーボンニュートラル』といいます。

被害が本当に深刻になる前に温暖化を止めるためには、2050年までにカーボンニュートラルを達成する必要があるとされており、日本を含め世界各国がこの目標に向かって取り組みを行っています。

CO2は主にエネルギー生産のために排出されるため、CO2を排出しない再生可能エネルギーへのシフトが求められています。しかし、再生可能エネルギーは『貯蔵・輸送が困難』という問題があります。この問題を解決するために、水素やアンモニアが注目されています。

これらの燃料は燃焼時にCO2を排出せず、安定に貯蔵でき、船やパイプラインによって輸送することができます。つまり、再生可能エネルギーを使って(変

換して)水素・アンモニアを製造し、エネルギーインフラとして使用することで、カーボンニュートラル社会の実現に大きく近づくことができます。現在、技術的には水素・アンモニアをインフラとして使用することは難しくありません。問題はコストであり、水素・アンモニアを安価に製造するための研究開発が行われています。

これには様々な技術がありますが、私は『石油などの化石燃料からプラズマ反応を用いる方法』に注目し、研究を行っています。これはCO2を排出せず、理論上は現行製造法より数倍安価に水素・アンモニアを製造できます。今後も研究に尽力し、一刻も早くこの技術を実用化したいと考えています。

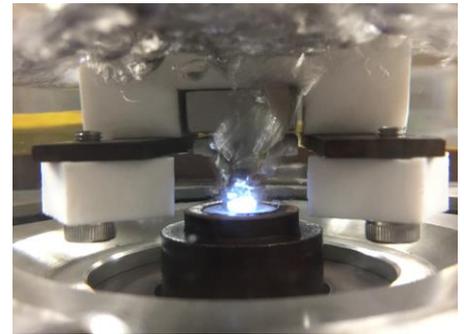


図. メタノールをプラズマ分解することで水素を製造する様子。

うべ環境コミュニティ会員 コラム

◇ 小学生にこそESD!の気持ちを込めて ◇ ～地域活動アサギマダラプロジェクト～

宇部志立市民大学環境・アート学部OB会
会長 山根 好子

『アサギマダラを常盤小学校に呼ぼう!』プロジェクトが始まって7年目に入ります。

私は、市民大学環境学部1期生です。(その後名称変更で「環境・アート学部」)13年も前になります。翌年「うべ環境コミュニティ」の会員になり、環境サロンで学んでいました。生活に密着した環境ですが、無頓着に過ごしていました。そのせいか、見ることも聞くことが新鮮でした。熱心に学び実践できることは実行しました。

やがて、ESD推進協議会が始動。「ESDってなに?」から学習が始まりました。浮田理事長(当時)からの助言をいただき、宇部市が募集している市民活動「地域団体と共創のまちづくり」に応募しました。加藤先生(現理事長)のプレゼンテーションをもって審査を突破しました。助成金をいただき「ESDの根っこ」を意識して地域づくりプログラムがスタートしました。

地域の核になる場所は常盤小学校と決めました。「子ども達と一緒にアサギマダラを呼びたい」と熱い想いを校長先生に話しました。「小学3年生は理科の勉強でモンシロチョウを育てて学習するので、アサギマダラの学びは良いですね」と、協力を得られることになりました。

地域団体は「常盤まちづくりサークル」という名前通り、住み良い地区づくり行事を実施している団

体と、「わくわく常盤」という青少年の健全育成を目的にした団体に連携をお願いしました。

アサギマダラを呼び寄せるにはフジバカマという植物の育成が必須です。花壇の造成と整備は人手が必要です。そこで、「フジバカマ育成応援隊」というのを作り学校周辺の高齢者数名に頼みました。

毎年10月中頃、「アサギマダラ観察会」を開催し、講師に嶋田さん(山口県自然観察員)にお越し頂き、3年生全員と地域の方と一緒にアサギマダラの生態を学んだのち、花壇周辺で観察いたします。

子ども達と一緒に育てたフジバカマ、飛来するアサギマダラ、カラスなどから身を隠せる雑木林。環境を整えたら飛来することを学んだ子ども達は、きっと自然を大切にすることでしょう。故郷を愛することでしょう。私は、ESDに出会い、素敵な仲間に出会い、大変意義深いプログラムを推進できて幸せに感じます。継続10年を目指して行きます。



アサギマダラを観察



小学生とフジバカマ
植付けの様子